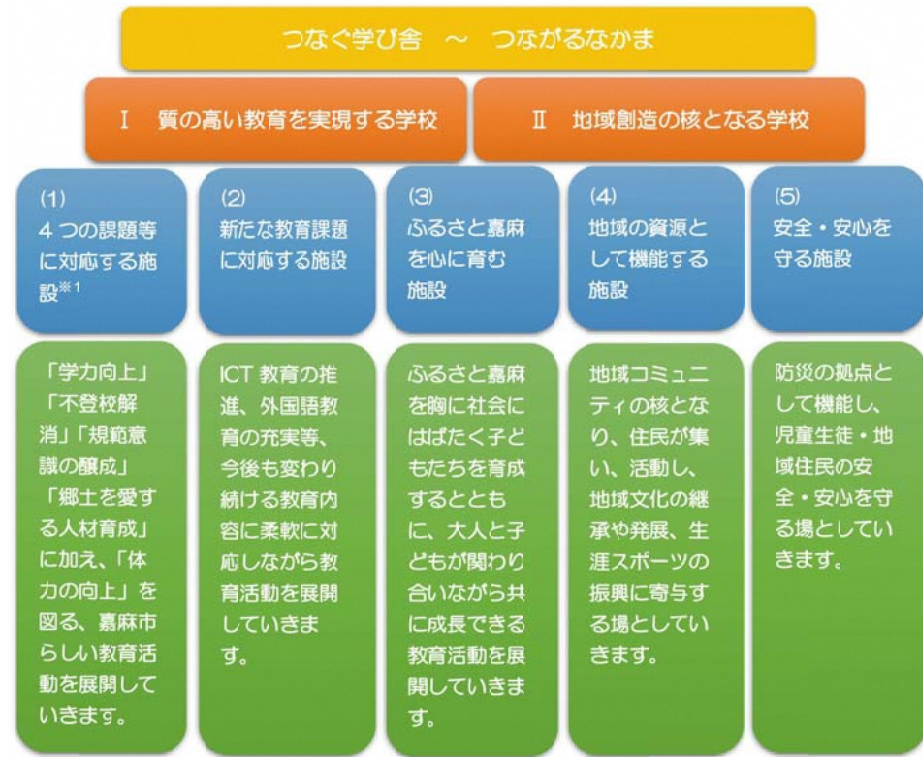


1 基本計画策定の目的

■基本計画策定の目的

「嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針」を踏まえ、稲築東中学校区の特色を生かした整備の具体化を図ることを本計画の目的とします。

■施設整備の基本方針



※1：4つの課題とは、嘉麻市教育の目標である「就労できる力」を達成するために、教育委員会の重点課題として取り組んでいる「学力向上」「不登校解消」「規範意識の醸成」「郷土を愛する人材育成」

2 計画候補地の現況及び課題

■稲築東小学校の現状

校舎棟と体育館は北側配置、学童保育所とプールは東側配置、グラウンドは南側配置です。



■稲築東中学校の現状

校舎棟と体育館は西側配置、武道場は南側配置、プールは北側配置、グラウンドは東側配置です。



■稲築東小学校敷地と稲築東中学校敷地の比較検討

稲築東小学校敷地と稲築東中学校敷地について、以下4項目の比較を示します。

比較項目	稲築東小学校敷地	稲築東中学校敷地
敷地面積	約28,000㎡	約29,000㎡
安全性	敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。グラウンドの陥没が発生したことがあり、十分な地盤調査が必要です。	土砂災害・水害区域には指定されていません。
地域の資源として機能する施設	敷地全体が小高い丘陵地の上にあるため学校活動がわかりにくいです。	校区の中央に位置しています。敷地全体が開けているため学校活動が見通せます。
計画候補地としての適性	△	○

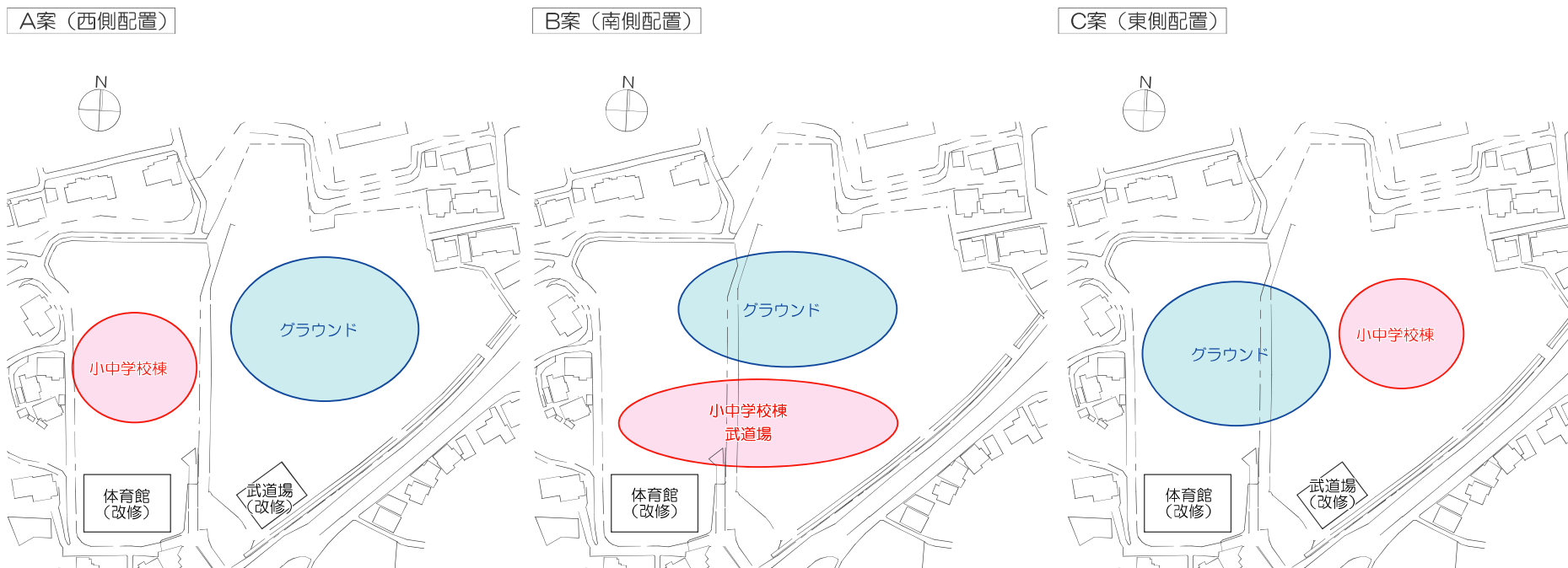
■計画候補地の決定

稲築東中学校区の計画候補地については、敷地面積や安全性、地域の資源として機能する施設などの観点から、稲築東中学校敷地を計画候補地とします。

3 配置計画

■配置計画の比較検討

計画候補地内での配置計画について、現校舎敷地に建設するA案（西側配置）、現校舎管理棟側に建設するB案（南側配置）、現グラウンド敷地に建設するC案（東側配置）の3つの案の比較を示します。



※3案ともプールについては検討中

■配置計画の比較検討

項目	A案（西側配置）	B案（南側配置）	C案（東側配置）
「コンパクトな施設づくり」	校舎、体育館、武道場、グラウンドのバランス良い配置とします。		
明確な配置計画	・学校管理エリア内に来校者駐車場が配置されて混合します。 ・メイングラウンドへ校舎の東側から接続します。	・学校管理エリア外に来校者駐車場が配置できるため、エリア分けが可能です。 ・メイングラウンドとサブグラウンドへ校舎の北側から接続します。	・学校管理エリア内に来校者駐車場が配置されて混合します。 ・メイングラウンドへ校舎の西側から接続します。
サブグラウンドの配置	・サブグラウンドの配置 無し ・校舎東側に低学年用観察園を確保	・校舎北側に配置（35m×60m） ・校舎南側に低学年用観察園を確保	・サブグラウンドの配置 無し ・校舎東側に低学年用観察園を確保
地域住民の集いの場となる施設づくり	地域住民が気軽に教育活動にふれられる施設とします。		
立寄りやすい配置計画	・来校者は正門から接続します。 ・来校者駐車場は校舎から離れ、2か所に分離します。 ・敷地外から学校活動の見通し可能です。	・来校者は正門から接続します。 ・来校者駐車場は校舎に近接し、1か所に集約します。 ・敷地外から学校活動の見通し可能です。	・来校者は正門から接続します。 ・来校者駐車場は校舎から離れ、2か所に分離します。 ・敷地外から学校活動の見通し不可能です。
地域コミュニティの拠点となる施設づくり	学校開放施設（体育館、武道場、図書館など）は地域住民が親しみやすい施設とします。		
地域交流の居場所づくり	・来校者駐車場と学校開放施設は集約します。	・来校者駐車場と学校開放施設は集約します。	・来校者駐車場と学校開放施設は集約します。
安全・安心を守る施設づくり	災害時に救護車両の進入や防災倉庫など、災害避難所として機能する施設とします。		
日常安全性の配置計画	・来校者動線を限定し全体把握が可能です。（管理しやすい）	・来校者動線を限定し全体把握が可能です。（管理しやすい）	・来校者動線を限定し全体把握が可能です。（管理しやすい）
駐車場の配置計画	・職員駐車場と来校者駐車場は分離配置します。 ・来校者の車両動線と児童生徒の歩行動線が交差します。	・職員駐車場と来校者駐車場は分離配置します。 ・来校者の車両動線と児童生徒の歩行動線は分離します。	・職員駐車場と来校者駐車場は分離配置します。 ・来校者の車両動線と児童生徒の歩行動線が交差します。
配置計画の適正	○	◎	△

■配置計画の決定

稲築東中学校区の施設配置については、生徒の学校生活への影響や地域開放性などの観点から、新校舎を現管理棟側に整備するB案（南側配置）とします。

4 学校規模・平面計画

■校舎面積

稲築東中学校区の小中一体型校舎における校舎面積の算定方法は、特別教室などを共有するため、30人以下学級における学級数を基準とし、中学校の算定基準表に準じて算定することとします。

稲築東中学校区の校舎計画面積は、約7,700㎡とします。

■教室形状

小中一体型校における普通教室の形状は、「学年段階の区切りに対応した空間構成」とします。

<小学校>

- オープンスペース型とし、学年ごとにユニットを構成します。
- 広い廊下がオープンスペースを兼ね、学年単位でのまとまりを重視します。
- 普通教室とオープンスペースの間には可動式のパーテーションを設置し、学級単位の活動に対応します。

<中学校>

- 生徒が主体的に学ぶことを重視して、大型モニターなどの情報機器を備えた教科教室を配置します。
- 落ち着いた学級活動が確実に実施出来るよう、普通教室同等のホームベース（HB）を配置し、教科教室を配置していない教科についてはHBで授業を実施します。
- 教室外にロッカースペースを配置することで、十分な収納スペースを確保し、生徒が授業に集中できる室内環境を目指します。

HB：ホームルームなどの学校生活を行う上で、拠点となる教室のこと。

■諸室計画

本計画に必要な諸室を以下のように設定します。

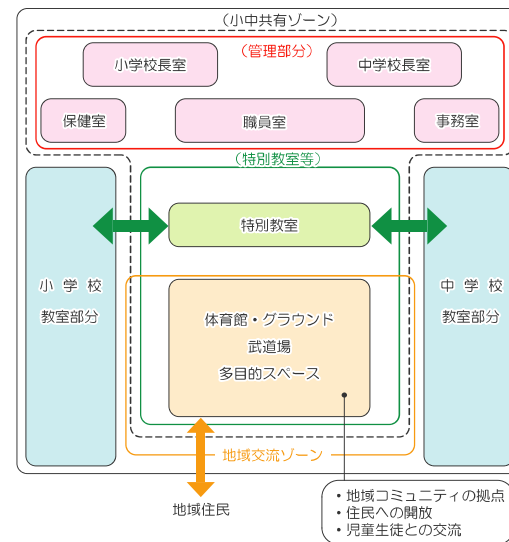
小中学校校舎

生活・学習ゾーン	小学校低学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	小学校中学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	小学校高学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	中学校ゾーン ・普通教室（HB） ・ロッカースペース ・WC、手洗い
	特別支援ゾーン ・特別支援学級 ・WC、手洗い	少人数教室 ・少人数指導教室	多目的 ・多目的教室	給食 ・調理、休憩、配膳 ・食品庫DW
	共用 ・エレベーター ・階段 ・廊下 ・備蓄倉庫		・昇降口 ・ホール	
教科学習ゾーン	特別教室 ・外国語活動室 ・理科教室 ・音楽教室			
	・家庭教室 ・技術教室 ・美術教室		・図画工作教室 ・教科教室 ・コンピュータ教室	
校務ゾーン	校務センター ・職員室 ・休憩室 ・校長室 ・印刷室 ・倉庫		付属 ・職員WC ・教材・教具室 ・地域活動・PTA室	保健・相談 ・保健室 ・相談室 ・進路指導室
			事務室 ・更衣室 ・放送室 ・会議室	
体育施設	体育館関連 ・体育館 ・ステージ ・WC			武道場関連 ・武道場 兼サブアリーナ ・倉庫
体育ゾーン	学童保育所 ・職員室 ・WC ・教室			

■配置ゾーニングの考え方

- 車両と歩行者を明確に分離します。
- 諸室
 - 管理諸室は全体が見渡せる配置とします。
 - 小学校低学年は、専用庭で植物観察ができる配置とします。
 - 小学校中高学年は、中学生を意識できる配置とします。
 - 中学校は小学校との単位時間の違いなどの運用面、管理面に配慮した区分とします。
 - 特別支援学級は、交流学級と連携のしやすい配置とします。
- 学校管理ゾーンと地域交流ゾーンを明確に分離します。
- 小中学校の交流、連携の拠点となる異学年交流スペースを配置します。
- 特別教室、管理諸室を小中学校で共有化し、施設全体をコンパクトに集約します。
- 稲築東中学校区の地域コミュニティの拠点として地域住民が親しみ、集いやすい配置とします。

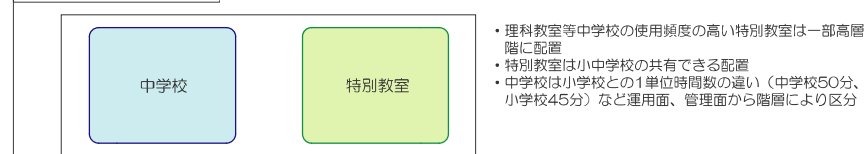
地域交流ゾーン：地域コミュニティの拠点として、児童生徒と地域住民が交流を図れるゾーンのこと。



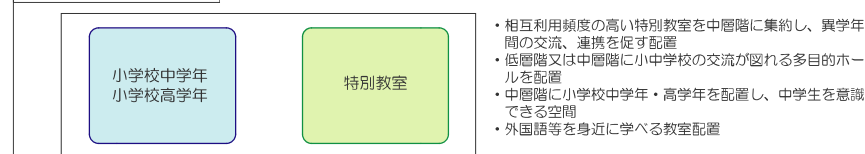
■各階ゾーニングの考え方

- 小中学校が独自性を保ちつつ、学校と地域が連携しやすい構成とします。
- 小中学校の交流、連携のための「多目的スペース」を小中一体型校舎の中心に配置し、共有可能な指導や特色ある教育活動を推進します。
- 小中一体型校への移行により、学校間の交流、連携を行いやしくするため、施設全体をコンパクトに集約し、配置します。

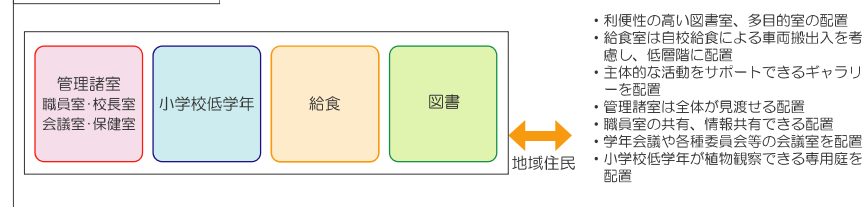
構成する高層イメージ図



構成する中層イメージ図



構成する低層イメージ図



5 構造計画・設備計画

■構造計画の検討

小中一体型校は、地震災害時の避難所としての施設でもあるため、一般の施設に比べ、大地震動に対する安全性を確保しておく必要があります。よって、耐震安全性の目標は官庁施設の耐震基準で定められている重要度係数に従い、保有すべき性能を確保します。また、避難施設として備蓄倉庫などの整備を計画します。

■設備計画の検討

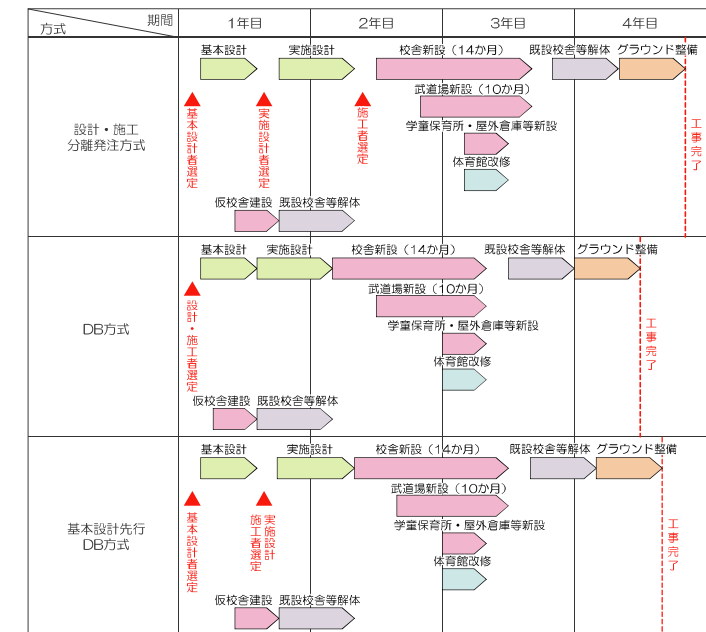
本計画において、以下の4つを設備計画の考え方とします。

- 「維持管理しやすい設備」
信頼性や安心性・操作性が高く、維持管理しやすい設備とします。
- 「時代の変化に対応できる設備」
時代の変化や技術の進展に柔軟に対応できる設備とします。
- 「環境に配慮した設備」
エコスクールの概念を取り入れ、自然と共生できる設備とします。
- 「安全・安心を守る設備」
災害時避難施設として必要な機能を備えた設備を計画します。

6 事業計画

■事業スケジュール（案）

各発注方式別に、基本設計から実施設計、施工、工事完了までの全体工程表を比較します。



今回の稲築東中学校区小中一体型校施設整備については、以下の条件が想定されます。

- 工期短縮の可能性
- 高度な技術力、知識、情報等の採用
- スケジュールの遵守

以上のことから、基本計画の実現、社会環境の変化等の多様な条件に対応可能な発注方式を検討していきます。

■概算事業費について

建設工事費算出に係る単価を、近隣実績から建設単価約30万円/m程度、改修単価約10万円/m程度とし、配置計画、各階平面計画等に基づき概算事業費を以下のとおり試算しました。なお、外構工事等の現時点で試算することが困難な費用については、概算事業費に含まれておりませんので、引き続き検討していきます。

表 概算事業費 (単位：百万円)

項目	金額	備考
建設工事費	2,800	校舎新設 学童保育所棟新設 武道場兼サブアリーナ棟新設 体育館棟改修

※現時点で可能な範囲で試算しています。